

## 目 次

はじめに

略語一覧

## 序 章 新史料で実証する東ドイツ政治外交史 …………… 1

本書の目的 東ドイツ史(1949～1955年)と史料 本書の構成

## 第 I 部 冷戦の起源と東ドイツ政治外交

## 【総説】ドイツ民主共和国研究の概観と問題点

冷戦史研究の動態 冷戦史研究概観 西欧諸国と「招待された帝国」  
東欧諸国と「招待された帝国」

## 第 1 章 「ドイツからの冷戦」とドイツ民主共和国 …………… 16

## I 国際レベルの「ドイツからの冷戦」論…………16

国際レベルの「ドイツからの冷戦」論の研究状況 国際レベルの  
「ドイツからの冷戦」論と時期区分

## II 国内レベルの「ドイツからの冷戦」論…………20

国内レベルの「ドイツからの冷戦」論の研究状況 全体主義体制とし  
ての東ドイツ 「協議的権威主義体制」としての東ドイツ ドイツの  
統一と東ドイツ体制研究 東ドイツ体制研究の諸問題

## III 東ドイツ体制研究の方法論と展望…………27

東ドイツ体制研究の方法論 国内レベルの「ドイツからの冷戦」論と  
時期区分

## 第 2 章 ヨーロッパにおける冷戦の激化と「ドイツ問題」…………34

## I ヨーロッパにおける冷戦の激化…………34

## II ヤルタ会談から第二次世界大戦の終結へ…………36

## III 「大同盟」から冷戦へ——ガティスの研究を参考に…………38

「大同盟」から冷戦へ スターリンの戦後目的と「幻想」

## IV 冷戦への多様な道…………40

マーシャル・プラン ドイツと冷戦への多様な道

V 東ドイツの憲法制定過程……46

ドイツの憲法と統治の歴史(概論) 東ドイツの憲法制定過程の特徴  
東ドイツの憲法制定過程とドイツ社会主義統一党

VI ドイツにおける冷戦の激化……53

ヤルタ会談・ポツダム会談とソ連のドイツ政策 西ドイツと東ドイツ  
の「体制競争」 過去の克服 「ブラハ・イニシアチブ」と「全ドイツ  
設立委員会」構想

## 第Ⅱ部 独ソ関係の変容とドイツ中立化構想

### 【総説】「スターリン・ノート」と「冷戦モデル」

「スターリン・ノート」の概略 ドイツと「冷戦モデル」

### 第3章 ヨーロッパ防衛共同体構想と「スターリン・ノート」……73

I ヨーロッパ防衛共同体と西側同盟……73

II 「西側統合政策」の輪郭……74

——ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体から「二重の封じ込め」へ

III 「西側統合政策」と「統合による『帝国』」……77

——ルンデスタッドの研究を参考に

「統合による『帝国』」とアメリカ 「統合」と冷戦

IV 「スターリン・ノート」と「ドイツ問題」……79

V 「スターリン・ノート」に対する「肯定派」と「否定派」……85

「スターリン・ノート」研究の概略 「スターリン・ノート」をめぐる研  
究史の概観

VI 「スターリン・ノート」に対する西ドイツの対応外交……90

戦後ドイツ政治とアデナウアー政権 西ドイツの政党の配置とキリス  
ト教民主/社会同盟 アデナウアー外交と「スターリン・ノート」

VII 「スターリン・ノート」に共鳴した「中立」勢力——「第三の道」路線……93

「中立主義」(「第三の道」) ドイツ社会民主党の政治・外交路線

VIII 「スターリン・ノート」に対する西側同盟の対応外交……98

西側同盟の「スターリン・ノート」に関する分析過程 「スターリン・  
ノート」への西側同盟の対応外交(英米仏) 「スターリン・ノート」と  
欧州国際政治—「中立」、「選挙」、「領土」 「覚書戦」への西側同盟の評価

## ヨーロッパ思想とドイツの中立主義

第4章 「東ドイツ・ソ連」関係の転換点	115
Ⅰ 「ドイツ民主共和国」とソ連との関係	115
Ⅱ ソ連外交の意思決定過程——マストニーの研究を参考に	118
Ⅲ 「スターリン・ノート」に対する東ドイツの対応過程	120
「国内派」と「モスクワ派」 ウルブリヒトと東ドイツの東側統合政策	
Ⅳ 「スターリン・ノート」の失敗と東ドイツの東側統合	124
モスクワ非公式協議(1952年4月1日・4月7日)の概略 モスクワ非公式協議を記録したソ連側の史料	
Ⅴ 東ドイツにおける「社会主義の建設」——「ドイツからの冷戦」	128

### 第Ⅲ部 東ドイツ市民と社会主義システム

#### 【総説】カール・ノメンクラトゥーラ・システム

- Ⅰ 東ドイツとカール・ノメンクラトゥーラ・システム(ドイツ労働運動と「ソ連型社会主義」 カール・ノメンクラトゥーラ・システムとは カール・ノメンクラトゥーラ・システムの概観 カール政策)
- Ⅱ ドイツ社会主義統一党と国家の権力構造(ドイツ社会主義統一党の権力手段とカール・ノメンクラトゥーラ・システム カール・システムと「3つの世代」)

第5章 ドイツ労働運動と「ソ連型社会主義」	144
Ⅰ 1953年の「危機」	144
Ⅱ 東ドイツの「強硬」な「ソ連化」政策——「危機」の先鋭化	147
第2回全党協議会(1952年7月9日～12日)と「強硬」な「社会主義の建設」「社会主義の建設」の実態と「危機」の深刻化	
Ⅲ スターリン以後の権力闘争	151
Ⅳ 1953年の「危機」とドイツをめぐる国際政治の動態	156
アイゼンハワー政権と「解放政策」 「解放政策」と「西側統合政策」チャーチルと「ドイツ問題」 モロトフと「ドイツ問題」	

第6章 「民族蜂起」と東ドイツ政治外交	168
Ⅰ 東ドイツと1953年6月17日事件	168
「新コース」と東ドイツ指導部 6月17日事件—事件の経過 ソ連軍	

と6月17日事件　東ヨーロッパと6月17日事件　ベリヤと6月17日  
事件　ウルブリヒトと6月17日事件

II 6月17日事件とヨーロッパ国際政治の展開……179

アデナウアーと6月17日事件　アイゼンハワーと6月17日事件  
チャーチルと6月17日事件　公表されなかった「モロトフ・プラン」  
ヨーロッパ国際政治と6月17日事件

終章 戦後ソ連とヨーロッパ国際秩序 …………… 193

I 「スターリン・ノート」と「ドイツ問題」の地政学的再検討……193

「国際秩序」としての「冷戦秩序」　オーストリアと「中立化」

II 「冷戦秩序」の確立……197

ベルリン外相会議　パリ協定と西ドイツの主権回復　ワルシャワ条  
約　ジュネーブ会談

III プロテスタント教会と東ドイツ国家……201

IV 本書の成果と課題……204

「米ソからの冷戦」と「現地からの冷戦」　本書の成果　今後の課題

おわりに……211

文献一覧……219

索引(人名・事項)

\*本文における引用文中の〔 〕は、引用者による補足である。